ヤヌシュ・コルチャック「子どもの権利」の探求

塚本智宏 ●メディアと社会

● 要約

本論文では、ヤヌシュ・コルチャック(1878－1942)の子どもの権利思想に関する歴史的検討を試みている。彼の思想は、1900－1920年代の戦争と革命の継続するポーランドの特殊な歴史的状況を背景に、子どもとの実践的な接触のなかで生み出された。子どもの権利保障をめざす彼の思想は、ヒューマニズム思想に根をおきながら民族や階級や女性の権利と並ぶ人権の歴史的構造に位置づけて展開される。そこでは子どもの権利保障の課題は、人権(人間性)を豊かにするその一翼としてあり、またその歴史の最終的な段階としての人権の課題を追求するものであった。また、彼は子どもの権利をあくまでも人間の権利において追求し、子どもが子どもであるがゆえに剥奪されている人間の権利の保障を彼の子どもの権利追求の基本コンセプトとした。さらに、彼の子どもの権利追求は、大人と同権たる主体としての人間を、換言するなら人権の主体としての子どもを追求するものであり、そのような社会的存在として意見を表明し、子どもの「識者」としての社会参加をも求めていた。そして、子どもと大人の両者の権利は互いに対立し相互利害の調整の必要なものとの認識を示した上で彼がめざしていたのは両者が相互の権利を尊重し共存する世界であった。とりわけ大人社会が子どもを尊重し信頼することを望み、その社会の将来の成熟において子どもの権利の確立を展望していた。(英文要約 p. 34)

● キーワード

ヤヌシュ・コルチャック
子どもの権利
人間の権利
人権の歴史的構造
子どもの権利と大人の権利